

Osaka Institute of Technology

Graduate School of Information Science and Technology

大阪工業大学 大学院 情報科学研究科

saka

nstitute of

echnology

研究科長挨拶

情報科学研究科のアドミッションポリシー …… 1

情報科学研究科のカリキュラム

情報科学研究科の授業科目 …… 2

特色ある教育①

地域の課題をAIデータサイエンスで解決 …… 3

特色ある教育②

社会人リカレント教育 …… 4

特色ある教育研究活動①

ワタリガニ養殖における持続可能な
DX化プロジェクト …… 5

特色ある教育研究活動②

360度画像を用いた画像処理、バーチャル
リアリティ(VR)、拡張現実(AR) …… 6

在学生からのメッセージ／研究施設 …… 7

就職実績・海外研究支援プログラム …… 8

奨学金制度・入学金／授業料 …… 9

入試制度 …… 10

自分のやりたい
研究の場がここにある！



みらいを つくる つたえる まもる。

大阪工業大学
OSAKA INSTITUTE OF TECHNOLOGY

なぜ大学院進学を薦めるのか？

自分にしかできない研究ができるのが大学院

大学院は、学部で身につけた専門知識を実践的な研究へと昇華させる場です。
学部時代に学んだことを存分に活用してください。

国の第5期科学技術基本計画（2016～2020年度）では、未来社会の姿としてサイバー空間と現実空間が融合した「ソサエティ5.0」が提唱され、AIやデータ処理に強い人材の育成の枠組みが作られてきています。情報科学部でも2021年度からデータサイエンス学科を新設し全学科で、AIを開発し、使える人材を育成しています。

次期基本計画（2021年度～）においても、現行計画を凌駕しつつ、SDGsなど持続可能なスマート社会実現を目指す方向性が示され、AIや情報技術の重要性が益々高まって来ています。

大学院情報科学研究科では、これからの情報革新時代に企業や社

会で求められる技術力を磨き、留学や学会発表・企業との共同研究・行政の抱える社会課題を解決するシステムの実装・学部学生PBLへの指導者としての参画などを経験して、最先端のAIを含む情報技術を扱える「高度専門技術職」として活躍する実力を養うことができます。第4次産業革命として社会変革が起ころうとしている中、今まさに、大学院で磨きかけた人材が必要とされています。

本学では大学院奨学金制度が一段と充実し、推薦入学で進学する大学院生を対象に返還する必要のない奨学金が給付される制度が用意されています。是非、大学院への進学をお薦めします。

情報科学研究科 研究科長

●アドミッションポリシー

博士前期課程・専門職学位課程

情報科学研究科では、情報分野において高い専門性を必要とする業務を遂行するために必要な能力、およびその基礎となる学識を養い、時代の要請を的確に把握し、国際的に活躍できる高度情報技術者ならびに高度専門職業人の養成を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れます。

<求める人物像>

- ・情報分野における高度な専門的知識や実践的技術の修得をめざす人
- ・情報分野の第一線で活躍する研究・開発者をめざす人
- ・進取の気性に富み、国際的な活動や起業家精神を生かした活動をめざす人
- ・能動的に学修や研究、実践的活動を遂行できる人

<入学前に学修しておくことが期待される内容>

情報科学専攻に入学するまでに、以下に記した能力を身に付けておくことが望ましい。

- ・高度な専門的能力を修得するために必要な学力と思考力を有すること
- ・情報科学の体系的な専門知識とプログラミングを含む実践的技術を有し、課題解決に応用できること
- ・数学は微積分学、線形数学、統計学を修得し、情報分野で求められる問題解決に応用できること
- ・日本語に加えて英語による基本的なコミュニケーション能力を有していること

博士後期課程

情報科学研究科博士後期課程では、博士前期課程で培った情報技術基盤や研究遂行能力をさらに高めて情報科学体系の総合的な理解を深め、課題解決に体系的・多面的な取り組みを主導できる高度情報技術者・研究者の養成を教育理念としており、この理念に沿った学生を受け入れます。

<求める人物像>

- ・高度な専門知識・技術を駆使して情報科学分野の先端的課題に取り組む高度情報技術者・研究者をめざす人
- ・情報科学分野の問題発見に長けた能力を有し、能動的に問題解決に取り組むことができる人
- ・高度情報技術者・研究者としての責任を自覚し、社会における問題解決のための計画・方策を立案して遂行する意思を有する人

情報科学研究科のカリキュラム

皆さんが学部で学んだことは、社会で使われている情報技術の中でも基礎的・基本的なものに過ぎません。皆さんは実社会で活躍するためには、さらに多くのことを学ばねばならないことに気づいていることと思います。変化の激しい世界で価値ある仕事を成し遂げるには、経験を積むだけでなく、広い視野を持つことや新しい考えや知識を取り込んで応用できることが重要です。情報科学研究科は、皆さんが将来の活動の幅を広げるための機会を提供します。より高度な知識や技術を獲得し、未知の課題への解決能力を養成します。そして、学会発表などを通じて、論文作成能力やプレゼンテーション能力を鍛え、社会で即戦力となりうるポテンシャルを深めていきます。

博士前期課程では、「情報基礎」「情報専門」「実習」「研究」の4

つの領域に分けられたカリキュラムが組み立てられており、専門的な研究を行い、実践的な問題解決能力を養います。修士論文に合格すると、修士（情報学）の学位を得られます。2015年度から、一部科目でクォーター制（4学期制）を導入したり、集中講義科目を設定しました。これにより、科目選択の自由度が増したほか、海外研究留学や企業インターンシップへも行きやすくなっています。また、2022年度からは、本学情報科学部の学生である一定の基準を充たせば、学部4年次に在籍しながら大学院の授業を履修することが可能になりました。研究者を目指す学生には、博士後期課程も準備されていて、国際学会での発表や権威ある学術雑誌への論文掲載も条件にして、博士（情報学）の学位を得られます。

「情報基礎」「情報専門」「実習」「研究」の4つの領域に分けられたカリキュラム

高度な知識や技術の修得

企業との共同研究
自治体との社会実証実験

問題解決能力の養成

留学・企業インターンシップ・
協議会への参加

経験値の獲得

国内外での学会発表・論文発表

プレゼンテーション能力の養成

世界で価値ある仕事を成し遂げる人材へ

情報科学専攻 博士前期課程 科目一覧

●情報基礎領域

情報技術者と倫理、情報科学特論A、情報科学特論B、情報科学特論C、情報科学特論D、情報科学特別講義A、情報科学特別講義B、情報科学特別講義C、情報科学特別講義D、情報数学特論A、情報数学特論B、複雑系解析論、機械学習論、生体情報処理特論A、生体情報処理特論B、英語プレゼンテーションA、英語プレゼンテーションB

●情報専門領域

計算機構成論Ⅰ、計算機構成論Ⅱ、ソフトウェア構成論、分散情報システム特論、ソフトウェア工学特論、制御システム特論、システム最適化理論、知能情報システム論、コンピュータグラフィックス特論、知識ネットワーク特論、ヒューマンインタフェース特論、情報ネットワーク特論Ⅰ、情報ネットワーク特論Ⅱ、情報セキュリティ特論Ⅰ、情報セキュリティ特論Ⅱ、通信ネットワーク構成論A、通信ネットワーク構成論B、データサイエンス実践特論、データサイエンス特論、データマイニング特論a、データマイニング特論b、機械学習応用特論、モノづくりのためのデータサイエンス実践特論、マーケティングのためのデータサイエンス実践特論a、マーケティングのためのデータサイエンス実践特論b、IoTデザイン特論、デジタルソイン特論

●実習

インターンシップ、情報科学演習（学内）A、情報科学演習（学内）B、情報科学演習（学内）C、情報科学演習（学内）D、情報科学演習（海外）

●研究

情報科学研究

博士後期課程 科目一覧

情報システム・ソフトウェア領域特殊研究、認識・情報メディア特殊研究、数理・データサイエンス領域特殊研究、実世界情報領域特殊研究、知能情報領域特殊研究

特色ある教育 ①

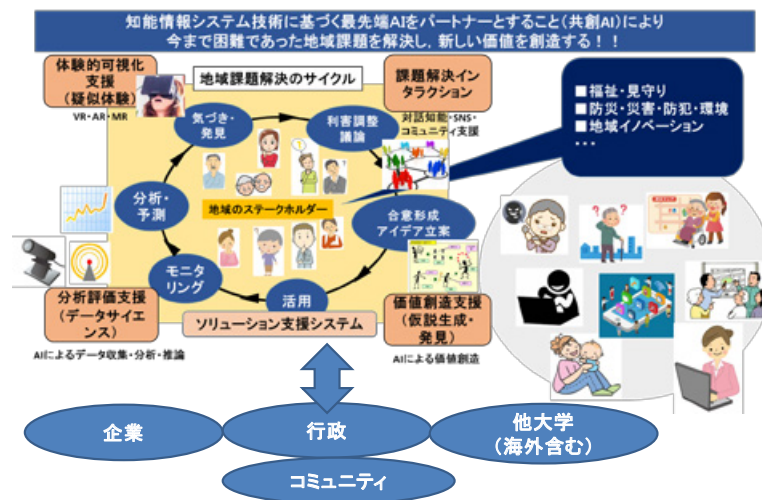
地域の課題をAIデータサイエンスで解決する ソーシャル・オープンイノベーションチャレンジ (ソイチャレ)

ソイチャレは、近年、オープンイノベーションや共創の手法として注目されている、Ideathon (アイデアソン) とHackathon (ハッカソン) 形式で実施される課題解決型コンテストのことです。大阪工業大学では、枚方市、北大阪商工会議所や通信大手企業や公的機関の協賛や後援を得て、地域課題を解決するプログラムを提供しています。Ideathon (アイデアソン) では、地域のステークホルダーが有する特定のテーマについて多様性を持った多くのメンバーで話し合いを行い、新しいアイデアや、課題の解決方法を見つけ出します。Hackathon (ハッカソン) では、多様性を持った人が集まり、与えられたテーマに対して短期集中的に開発するサービスやシステム、アプ

リケーションなど成果を競い合います。

ソイチャレは、2019年度に発足したHirathon (ヒラソン) を前身とし、2021年から始まりました。情報科学研究科の学生や情報科学部の学生がチームを結成し多数参加します。枚方市をはじめとする行政が提供する公共オープンデータ (ビッグデータ) や地産地消データを積極的に活用し、AIデータサイエンスのアプローチにより、価値創造を行います。アイデア創出のアイデアソンでは、要件定義書や事業計画書の作成を目標とし、システム開発のハッカソンでは、要件定義書をもとにした課題解決のためのプロトタイプ開発を実施します。

AI × IoT × データサイエンスを活用



特色ある教育 ②

2024年度 スマート・マニファクチャリングに向けた DXイノベーションリーダー人材育成プログラム（履修証明プログラム）を開講

大阪工業大学大学院情報科学研究科が文部科学省の「職業実践力育成プログラム（BP）」に申請し認定されたもので、対象は主にDXを活用してイノベーションを牽引できる中核層（リーダーシップがとれる層）などがターゲットとなっていますが、本学学生も履修可能です。

プログラム概要

製造業における、工場や生産現場における設計・生産だけではなく、サプライヤーとのネットワークや小売・保守も含め、モノづくりの全工程に対する新しいバリューチェーンに関係する、製造業界、サービス業界、小売り・流通業界などの幅広い企業において、DXを活用してイノベーションを牽引できる中核層（リーダーシップがとれる層）に対してのプログラムです。本プログラムでは、まず、機械学習・最適化やデータマイニング、IoTデザインなどを学び、実践学習として、デジタルツイン実践、モノづくりのためのデータサイエンス実践やマーケティングのためのデータサイエンス実践を通して、課題解決の実践スキルを学習します。

開講科目（予定）

- ・データサイエンス特論
- ・データマイニング特論b
- ・機械学習応用特論
- ・IoTデザイン特論
- ・デジタルツイン実践特論
- ・モノづくりのためのデータサイエンス実践特論
- ・マーケティングのためのデータサイエンス実践特論b

履修対象

学士の学位を有するもの、またはそれと同等以上

修了の認定と履修証明書の交付

本プログラムは履修証明プログラムであり、以下の修了要件を満たしたものに對し修了の認定をおこない履修証明書を1通交付する。

修了要件

本プログラムの全ての科目の単位（7単位）を取得している

得られる能力

DX推進スキル標準に準拠し、スマート・マニファクチャリングにおけるビジネスアーキテクト人材やデザイナー人材を目指し、ビジネス変革力、データ活用力、リーダーシップ力、コラボレーション力、課題解決力などが得られます。

特色ある研究活動 ①

ワタリガニ養殖における持続可能なDX化プロジェクト

◆背景

高級な食用ワタリガニの収穫率向上を目指し、ワタリガニ養殖のデジタルトランスフォーメーション (DX) 化に向けた実証的研究に取り組んでいます。現在、養殖業における情報科学技術の適用は黎明期であり、その効果的な活用方法について模索している状況です。本研究課題では、次世代のワタリガニ養殖方法の研究開発について、養殖場を有するハサヌディン大学 (インドネシア) 及び沖縄県伊良部島を研究拠点とし、国際連携、産学連携、学際融合を通して実践的に取り組んでいます。

◆DX化へ向けた課題

フィジカル空間 (実空間) からデータを収集し、サイバー空間でそれらを分析・フィードバックすることで、新たな価値を産業や社会にもたらすサイバー・フィジカルシステム (Cyber-Physical System: CPS) の構築が進んでいます (図1左)。自動運転や工場のような機械間での自動化されたフィードバックループが形成される場合、CPSは実現可能でしょう。しかし、本研究課題 (図1右) が対象とする第一次産業 (養殖業等) では、不確定要素であるヒトと自然が中心かつ大部分の役割を締める中に、ICT・IoT・AI・ロボット等のテクノロジー要素を導入し、フィードバックループを形成するシステム構築が必須となります。そのため、特に、システムを使用する現場の方々との連携が求められます。

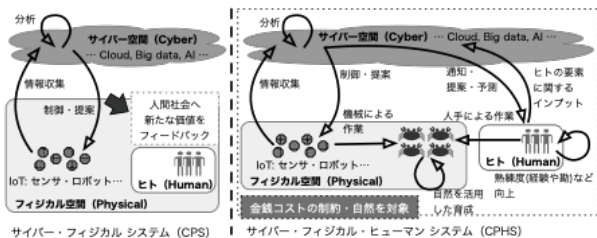


図1 CPSとCPHSの概念

◆アプローチ

ワタリガニ養殖のDX化に向けて、最初に取り組むべき重要な要素はデータ化です。安定的なデータ取得と分析を行うため、研究室および現地での開発に注力しています (図2,3)。研究室内においても実際にワタリガニを飼育し、データ収集と分析を行なっています (図4,5)。また、工学と水産学の学際融合の観点から、現地の状況を観察、体験することが重要となるため、現地調査も行なっています (図6)。



図2 養殖場の水質のリモート監視 (インドネシア)



図3 AIによる幼生の育成状況の確認 (インドネシア)

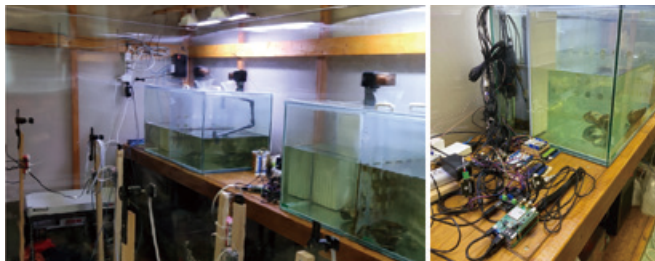


図4 水質モニタリングシステムの開発

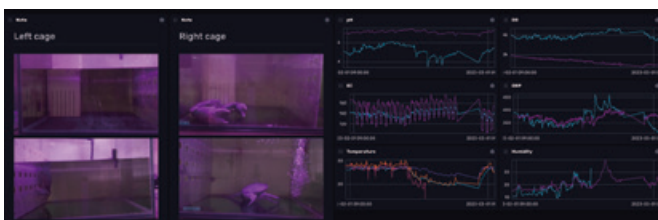


図5 デジタルツインへ向けた開発



図6 沖縄県伊良部島での水質等の現地調査

特色ある研究活動 ②

360度画像を用いた画像処理、バーチャルリアリティ (VR)、拡張現実 (AR)

◆背景

手軽に撮影できる360度カメラ（全方位カメラ）が普及し、気軽に360度画像を撮影することができるようになりました。このような画像は、例えばGoogleストリートビューや不動産サイトでのバーチャル内覧のような、その場に行ったかのような体験ができるVRシステムなどで利用されています。しかし、そのような利用には様々な課題が存在します。そこで、いくつかの課題とそれらの解決を目指す研究の取り組みを紹介します。

◆360度画像からの撮影者の消去

360度カメラを手に持って撮影すると、撮影者が映り込んだ360度画像が得られます。自分を写したいときにはよいですが、このままではVRシステムには利用できません。そこで、図1に示すように、まず、(1)カメラの位置をできるだけ変えずに、カメラの周りを取りながら複数枚の静止画像を撮影します。次に、(2)コンピュータビジョンの技術を用いて、複数枚の画像間で対応付けを行い、撮影者以外の見え方が同一になるように画像を補正します。最後に、(3)複数枚の画像の比較により撮影者が写っていない領域を自動的に抽出し、統合します。これにより、撮影者が写っていない360度画像を生成することができます。

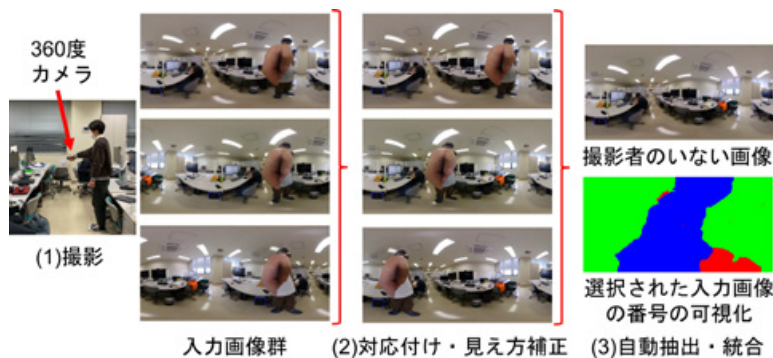


図1 360度画像からの撮影者の消去

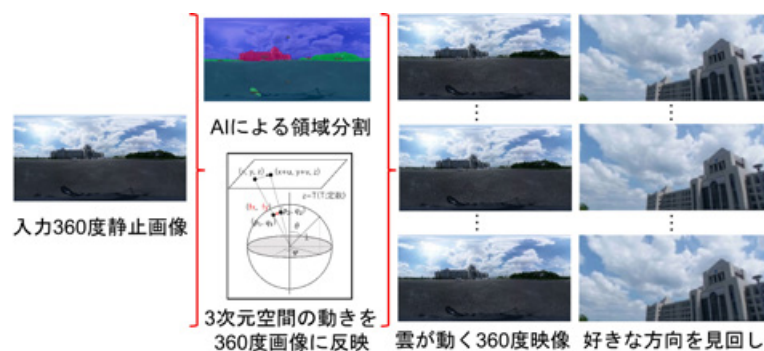


図2 360度静止画像の映像化

◆360度静止画像の映像化

Googleストリートビューのような360度カメラを移動しながら撮影したデータを用いたVRでは、ある1地点においては静止画像をユーザに提示することになります。このため、ユーザはその場にいるかのような臨場感が得られないことがあります。そこで、図2に示すように、AIのアプローチにより画像を空や水面とそれ以外の領域に分割し、3次元空間での空の雲や水面の動きを360度画像上で動きに反映させます。これにより、1枚の360度静止画像から空の雲や水面が動く360度映像を生成でき、臨場感の高いVRを実現します。

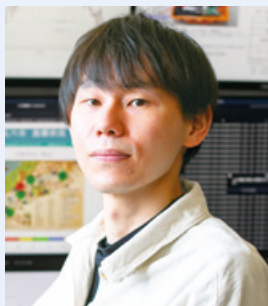
◆360度画像を用いた拡張現実 (AR)

360度画像はVRだけでなく、ARにも利用することができます。通常、ARではリアルタイムカメラ映像にCGを合成し提示しますが、観光地などで周囲に多数の人がいる場合、人が映り込んでARが正しく機能しないことがあります。そこで、図3に示すように、事前にARを体験する位置で360度画像を撮影し、CGをその画像に合成しておきます。そして、リアルタイムカメラ映像の代わりに、CGを合成した360度画像をモバイル端末の向きに応じて切り出してユーザに提示することで、周囲の人が映り込まない、リアルタイム映像を用いたかのようなARを実現します。



図3 360度画像を用いたAR

在学生からのメッセージ



情報科学研究科 情報科学専攻
博士後期課程 3年
豊味 諒磨

研究と実践を通じて成長する環境

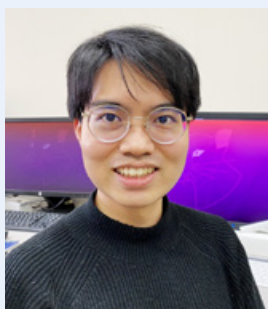
私は現在、情報科学研究科の博士後期課程に在籍し、Wi-Fiセンシングに関する研究に従事している。研究を通じて、データ解析やセンシング技術に関する知識を深めるだけでなく、実際の社会課題を解決するための応用力も鍛えられてきた。特に、実験やフィールドワークを通じて得た経験は、単なる理論研究にとどまらず、実社会での活用を意識したものとなっている。

博士後期課程では、自ら課題を設定し、それに対する解決策を模索しながら試行錯誤を重ねることが求められる。この過程で、専門知識だけでなく、論理的思考力や問題解決能力、さらにはプロジェクト管理能力も身につけることができる。加えて、学会発表や論文執筆を通じて、研究成果を世

界に発信する機会も多くあり、非常に充実した環境だと感じている。

また、私は自身の研究成果を基に起業し、Wi-Fiセンシング技術を社会実装する取り組みを進めている。博士課程で培った知識やスキルを実社会に応用し、研究とビジネスの両面から技術の発展に貢献できる可能性を実感している。大学院は、研究だけでなく、新たな挑戦を支援する環境でもあり、自らのアイデアを形にする絶好の場であると考えている。

情報科学研究科は、最先端の技術を学びつつ、自らのスキルを高める絶好の場である。これから進学を考えている人には、ぜひこの環境で自身の可能性を広げてもらいたい。



情報科学研究科 情報科学専攻
博士前期課程 1年
船橋 駿介

技術者としての自信を付けることができる場所

私が大学院進学を決意した理由は、自分自身の技術者としての価値を向上させたいと考えたからです。私は大学の3年次、卒業後の進路は就職にしようと考えていました。しかし、当時は自信を持つことができる具体的な技術が無く、社会でどういった事業内容に携わりたいのかをアピールすることができなかつたため、2月頃になってめぼしい内定先を得ることができませんでした。そこで、私は何か一つ自分で自信をもってアピールすることができる技術が欲しいと考え、大学院進学を決意しました。

大学院生活では定期的に行われる学会発表に向けて研究を行っています。私はエッジAIという小型端末に搭載されたAIの高速化について研究してお

り、どのような手法でより高速に処理を行うことができるのかを考えながら研究に取り組んでいます。AIに関する知識はもちろん、使用する小型端末の設計に関する技術も必要なため、ソフトウェアだけでなくハードウェアに関する技術を身に付けることが可能です。

大学院では学部時代より専門的な技術・知識を、研究活動を通じて身に付けることができます。そのため、現在社会でやりたいことが無く自分の技術に自信が無い方は大学院に進み、専門的な技術や知識を身に付けた後、就職活動を進めていくという方針を立ててみるとよいのではないかと思います。

研究施設

2025年4月開設、実証実験施設

「DXフィールド」を開設

「DXフィールド」では、デジタルトランスフォーメーションの実現に必要なAI、IoT、CPS、データサイエンス、ICT、仮想空間技術、サイバーセキュリティなどの多種多様なデジタル技術に関する実証実験を行います。天候に左右されずに多数のドローンの飛行やロボットが動き回ることができる屋内実験空間となっており、物流、農業、防災分野などにおけるAIやソフトウェアで制御されたドローンやロボットの社会応用実験、大規模なXRシステムの研究開発を可能にします。

この新たな教育・研究拠点「DXフィールド」を活用して、豊かな社会と明るい未来を叶える次世代の実践的な情報プロフェッショナル人材を育成します。



バーチャルリアリティ室

ハイビジョンの16倍の解像度をもつ8Kプロジェクターが設置され、大画面スクリーン（横：約4.4m、縦：約2.5m）に臨場感あふれる高精細映像を表示できます。また、マルチチャンネル音響や3名が座ることのできる電動6軸モーションなどもあり、没入感のある視聴体験ができます。さらにコンテンツ制作機器として、8KカメラやCGをリアルタイム生成できる高性能PCなどもあるため様々な仮想空間を作ることができます。また、コンピュータで設計したCGモデルを、実物として出力できる3Dプリンタも整備されています。このような設備は、CG制作やVR応用技術、3次元映像、プロジェクトマッピングの研究などに活用されています。



デジタルアーカイブセンター

デジタルコンテンツを作成したり閲覧するための様々な入出力装置が設置されています。デジタルコンテンツには、人の動作をデジタル化するモーションデータ、3次元物体をデジタル化するデジタルモデル等、様々なコンテンツを作成することができます。人の動きを測定する（モーションキャプチャ）装置としては、8台のカメラを有するモーションキャプチャシステムを使用します。実際の能やゴルフスイングの動作のデータ取得には、人体の各関節に対応する場所に多数のマーカーを貼り付け、8台のカメラから照射される光の反射をカメラで取り込むことにより、3次元的に動作をとらえることができます。また、対象物体にレーザー光を照射して、その反射光を使って直接計算機に3次元形状を取り込む3次元非接触形状入力装置が設置されています。



海外研究支援プログラム

専門性を活かして世界で研究 世界的視野を持つ人材へ成長



本学大学院に内部進学が決まっている学部生および大学院生を選抜して、海外の大学・研究機関に1ヶ月以上派遣する「海外研究支援プログラム」を実施しています。本学では、その渡航費と研究活動の経費の一部を支援しています。海外の研究者や学生との交流で刺激を受けて研究意欲が高まるとともに思考の幅も広がり、さまざまな困難を乗り越える力が身につきます。

就職実績

一流企業の研究職・設計職へ 生涯賃金も約1.2倍にアップ



修了生の多くは大企業の開発設計職、研究職として活躍しています。情報科学研究科の求人倍率も、学部の42.0倍に対し、282.8倍もの高い数字を誇ります。

【おもな就職先】

伊藤忠テクノソリューションズ(株)	NTTコミュニケーションズ(株)	NTTコムウェア(株)	(株)NTTデータ
(株)NTTドコモ	(株)大林組	オムロン(株)	(株)カプコン
京セラ(株)	グーグル(株)	(株)コロプラ	シャープ(株)
(株)スクウェア・エニックス	スズキ(株)	ソニー(株)	(株)ニコン
西日本電信電話(株)	(株)日本総合研究所	(株)野村総合研究所	パナソニック(株)
(株)日立製作所	富士通(株)	(株)マイナビ	三菱重工業(株)
三菱電機(株)	LINEヤフー(株)	楽天(株)	ルネサスエレクトロニクス(株)
ローム(株)			

差は**4,846万円**

(五十音順)

【生涯賃金(全国平均)】

大学院卒：3億4009万円
大 学 卒：2億9163万円

(出典:内閣府(2014年) 大学院卒の賃金プレミアム)

奨学金制度

【2025年度入学生対象】 学内進学者に限定。いずれも給付制奨学金。大阪工業大学に在学している外国人留学生で学内進学者入学選考を受ける場合は、別途問い合わせのこと。

博士前期課程

奨学金の種類	大学院入学前予約採用型 給付奨学金	大学院グローバル人材 奨励給付奨学金	大学院特待奨学金
区 分	博士前期課程	博士前期課程	博士前期課程
給付額(年額)	【学科内成績最上位者】 (1年次) 57万5千円 (2年次) 50万円 【学科内成績最上位以外の者】 (1年次) 37万5千円 (2年次) 30万円	20万円	年間授業料の 全額相当額
採用資格	学内進学者入学選考により合格した学生で、学業・人物ともに優秀と認められる者	本学の学内進学者および学内進学した在学生で、TOEICスコアが所定の点数を満たす者* ただし英語を母国語としない者 (過年度実績:550点)	学部3年次までの成績が極めて優秀で、経済的理由のため就学が困難と認められる者で、TOEICスコアが所定の点数を満たす者* (過年度実績:450点)
採用定員	採用資格を有する者	採用資格を有する者	原則各学科1人
給付期間	2年間 (継続審査無し)	1年間 (在学时1回限り)	2年間 (1年次末に継続審査あり)
出願について	入試出願時に合わせて出願	4月にUNIPAにて案内	被推薦者は学内進学者入学選考を受験すること

*公式認定証/スコアレポートの提出が必要です(得点は変更される場合があります)。オンライン受験による点数は受け付けません。

◆博士後期課程の奨学金についてはHPをご参照ください。

◆奨学金制度や金額は変更することがあります。

入学金・授業料

博士前期課程

【2025年度】

学 費	1年次		2年次(年額)	合計(2年間)
	入学手続時納入	後期納入		
入学金	150,000円	—	—	150,000円
授業料	510,000円	510,000円	1,020,000円	2,040,000円
合 計	660,000円	510,000円	1,020,000円	2,190,000円

博士後期課程

学 費	1年次		2年次(年額)	3年次(年額)	合計(3年間)
	入学手続時納入	後期納入			
入学金	220,000円	—	—	—	220,000円
授業料	480,000円	480,000円	960,000円	960,000円	2,880,000円
合 計	700,000円	480,000円	960,000円	960,000円	3,100,000円

*本学出身者は、入学金の減免(半額)を受けることができます。

上記以外に毎年1.4万円程度の諸会費(年額)が必要です。

入試制度

大学院情報科学研究科に入学するためには、所定の入学試験を受け、合格する必要があります。

入学は以下のとおり、年度内に3回実施します。

I. 学内推薦 [博士前期課程]

学内推薦は面接のみで受験することができますが、以下の出願資格を満たす必要があります。

- ①3年次3月に応募、翌年4月に入学できる人
- ②本大学院情報科学研究科への専願進学を希望する人
- ③次の学内推薦基準を満たし、学内推薦を受けることができること

[学内推薦基準]

情報科学部生で、3年次後期終了時点で、次の基準をすべて充足する者

- ①卒業研究着手要件を満たしていること。
- ②学部3年次までの成績（教職課程科目除く）が、一定水準以上の条件を満たしていること。

※大学院特待奨学金を目指す者は、前頁の奨学金制度の注釈参照

II. 大学院第1回一般入試 (例年、7月に実施) [博士前期課程] [博士後期課程]

III. 大学院第2回一般入試 (例年、2月に実施) [博士前期課程] [博士後期課程]

[II,IIIの入試科目]

[博士前期課程]

■学科試験

数学（微積分学・線形数学）、英語（TOEICの点数による）、プログラミング（C言語）、情報専門科目（以下5科目から3科目選択し解答すること。科目選択は受験日に決定する。）

- ①データ構造とアルゴリズム
- ②計算機アーキテクチャ
- ③オペレーティングシステム
- ④情報通信ネットワーク
- ⑤統計解析

■面接試験

■書類審査（調査書・成績証明書、TOEICの成績（ただし、オンライン受験除く））

[博士後期課程]

■面接試験

■書類審査（調査書・成績証明書）

※必要により筆記試験を行うことがある。

